

令和6年能登半島地震による志賀原子力発電所の現況について（1月9日時点）

【変圧器関連】

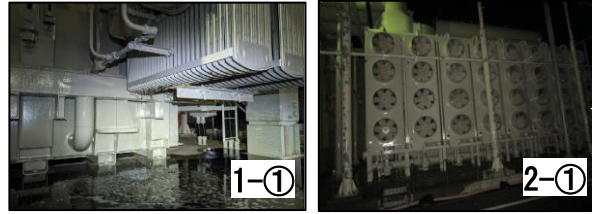
○絶縁油漏れ等

1号機起動変圧器（1-①）および2号機主変圧器（2-①）に絶縁油の漏れ等が発生したが、漏れた絶縁油について回収済み。

また、2号機主変圧器の噴霧消火設備の作動により飛散し、その後の降雨で側溝等を通じ前面海域に流れた絶縁油についても処理・回収済み。

1、2号機とも予備電源変圧器により外部電源から受電している。また、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。

⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。



【外部電源関連】

○系統確保数

2号機主変圧器が使用できないことおよび中能登変電所のガス絶縁開閉装置（GIS）に一部損傷があることから、志賀原子力発電所への外部電源5回線のうち2回線が使用できないが、3回線が使用可能である。

また、非常用の電源として、非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。

⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。

【変圧器関連】

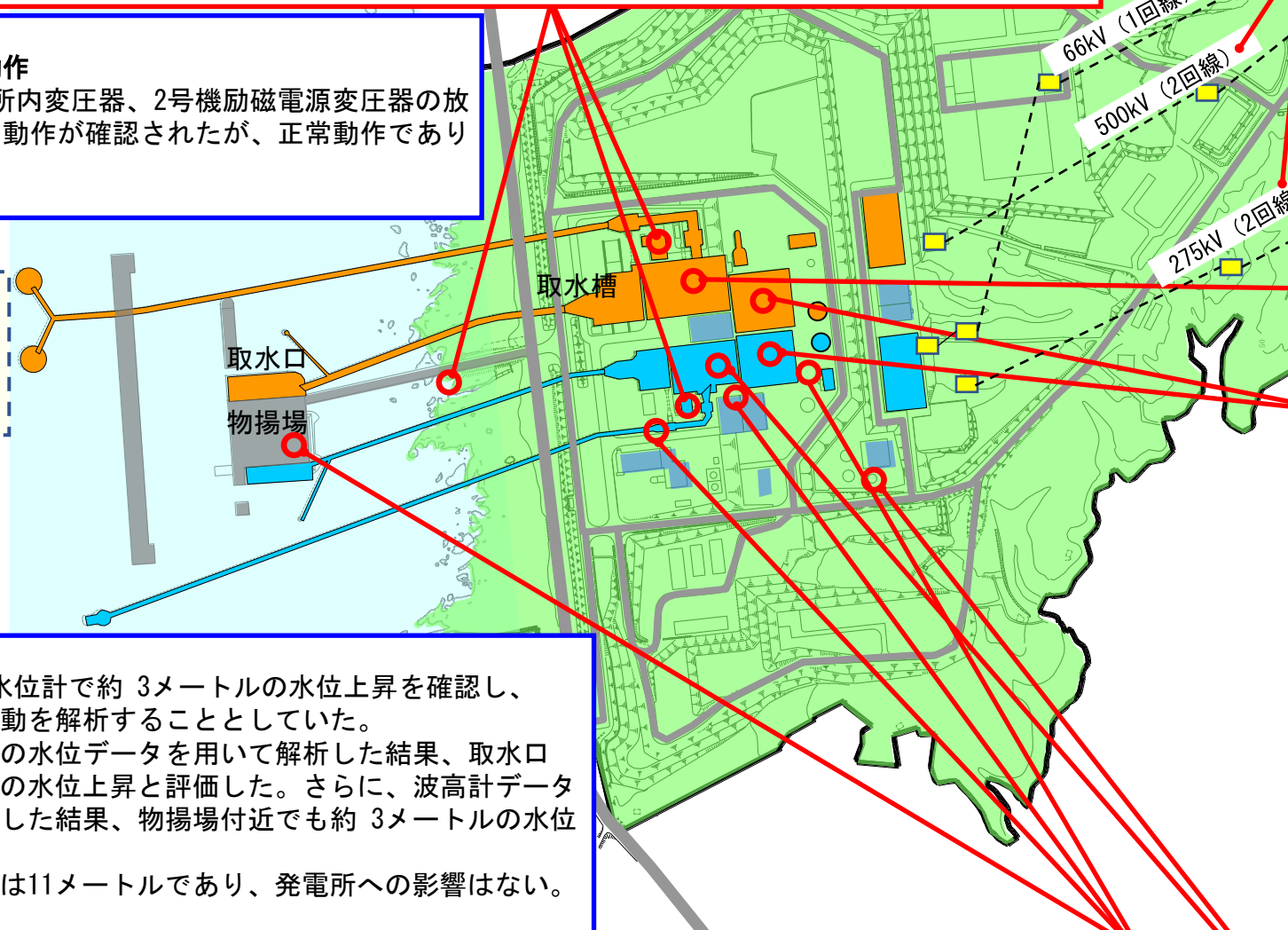
○放圧板・放圧弁動作

1号機主変圧器、所内変圧器、2号機励磁電源変圧器の放圧板および放圧弁の動作が確認されたが、正常動作であり問題なし。

<凡例>

■：被害状況

■：その他情報



【低圧タービン関連】

○タービン「伸び差大」警報

停止中の2号機低圧タービンにおいて「伸び差大」警報が発生した。

⇒タービンの停止中に発生したものであり、原子力安全の確保に影響はない。

【使用済燃料貯蔵プール関連】

○プール水の飛散

1号機、2号機使用済燃料貯蔵プール水が波打ち現象（スロッシング）により床面に飛散したが、飛散した量はわずかであり、プール水位への影響および外部への放射能の影響はない。なお、飛散水についてはふき取り済み。

（1号機：約 95リットル、約17,100Bq）

（2号機：約326リットル、約 4,600Bq）

⇒プール水位はほとんど変化しておらず、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。

○プール落下物

2号機使用済燃料貯蔵プール内に保管してあった原子炉冷却材再循環ポンプの検査装置の一部がプール底部に落下していることを確認した。

⇒落下物は軽量であり、燃料から離れた位置に落下したことから使用済燃料への影響はない。

【津波関連】

2号機取水槽内の水位計で約 3メートルの水位上昇を確認し、海域における水位変動を解析することとしていた。

その後、取水槽内の水位データを用いて解析した結果、取水口付近で約 3メートルの水位上昇と評価した。さらに、波高計データを収集・分析・評価した結果、物揚場付近でも約 3メートルの水位上昇を確認した。

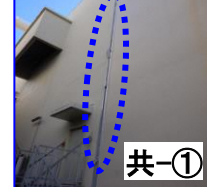
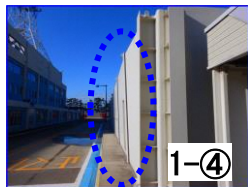
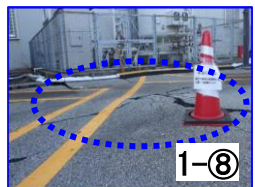
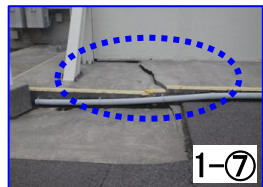
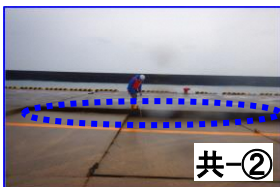
発電所の敷地高さは11メートルであり、発電所への影響はない。

【建物・敷地内道路関連】

○地盤沈下、傾き等

物揚場埋立部のコンクリート舗装（共-②）、1号機放水槽および1号機補機冷却排水連絡槽防潮壁の基礎（1-⑦）、1号機高圧電源車使用箇所付近（1-⑧）に地盤沈下、1号機放水槽防潮壁に傾き（1-④）、1、2号機廃棄物処理建屋エキスパンションジョイントシールカバーの脱落（共-①）が発生した。

⇒いずれも被害は軽微であり、安全および使用上の支障なし。



【冷却水・補給水関連】

○水位低下

1号機タービン補機冷却水系サージタンク、純水タンクの水位低下が確認されたが、いずれも原因を特定し水位低下は停止。

⇒漏えいのあった範囲は、冷房用の冷却水や分析機器の洗浄等に使用する部分であり、原子力安全の確保に影響はない。